

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：後志地区
 - 2 事例報告学校名：ニセコ町立ニセコ小学校
 - 3 報告者職・氏名：校長 佐 古 岡 香
 - 4 キーワード：コミュニケーション能力を育む外国語活動
-

1 はじめに

ニセコ町は後志管内のほぼ中央部に位置しており、秀峰羊蹄山とニセコ連峰に囲まれた美しい景観に恵まれた町である。人口は約5,000人で、子育て世代やリタイア後の移住者、外国人居住者により2000年代より微増している。管内でも多雪地帯であり、冬はパウダースノーを求めて多くの観光客が訪れる観光地域でもある。

本校は、少子化による児童数の減少傾向が見られず、ここ数年は250人前後の児童数を維持している。外国からの移住者の増加に伴い、保護者が外国籍である児童が1割以上在籍しており、国際色豊かな学校である。

2 ニセコスタイルの教育

ニセコ町では平成29年度より、子どもへの長期的な支援や学びの連続性の確保等の観点から、校種を越えた学校の連携による、ニセコで学び、ニセコを愛する子どもを育てる「ニセコスタイルの教育」を進めている。特に「英語教育」は重点課題の一つとなっており、本校においてもコミュニケーション能力を育む外国語指導の充実を中核に、英語教育の推進を図っているところである。

3 地域の特性を生かした外国語教育

(1) 6年間を通した外国語教育

本校では、1・2学年において本校独自のカリキュラム「外国語活動」を編成し実施している。それぞれ年間15時間実施し、3・4学年の「外国語活動」、5・6学年の「外国語」に引き継がれていく。子どもたちは、ニセコ幼児センターの年中・年長児から英語を学んでいるため、幼小連携の観点から幼児センターでの英語活動の様子を本校の教員が見学し、カリキュラムの見直しや改善に努めている。

(2) 教科担任制の導入

本校は平成30年度から令和3年度まで外国語専科の加配が配置され、外国語や外国語活動の指導を専門的に行ってきた。令和4年度からは、高学年の教科担任制を導入し、英語の免許を所有する高学年担任の教員が教科担任として授業を行っている。また、令和5年度は、英語の免許を所有し豊富な授業実践を積んでいる主幹教諭が1・2学年の外国語活動、6学年の外国語の教科担任として授業を行い、ニセコ幼児センターやニセコ中学校との円滑な接続と連携を進めている。

(3) 地域との連携による国際communication活動

①北海道インターナショナルスクールニセコ校（HIS）との交流活動

本校の校舎の裏手に隣接する、HISの子どもたちと本校の3～6学年が英語を介しての交流活動を行っている。今年度は6月に3・4学年が、10月に5・6学年がそれぞれ学年ごとにインタビュー活動等を行った。外国語活動や外国語の授業で慣れ親しんだり学んだりした英語を実際に使うだけでなく、身振りや手振り、ジェスチャーなどを総動員してコミュニケーションを図る姿が見られ、教育効果の高い取組の一つとなっている。



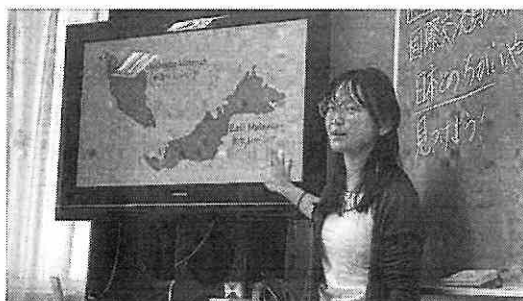
②インターナショナルリーディングプロジェクト

ニセコ町国際交流推進協議会が運営し、1～4学年を対象とした多言語による絵本の読み聞かせを行う国際交流授業である。令和4年度は2月に実施し、1学年『はらぺこあおむし』、2学年『くまさん、くまさん、なにみてるの?』、3学年『スイミー』、4学年『もりでいちばんつよいのは?』を、ニセコ町在住の国際交流員と絵本作家の本間眞由美さんが、英語、中国語、フランス語、日本語で読み聞かせをした。読み聞かせ後、国際交流員の出身地であるオーストラリアやカナダ、ニュージーランドの遊びを教えてもらい実際に遊びを楽しむ時間を設けている。外国の風土や言語に触れる活動を通して、国際理解や共生の精神を育む取組である。

③国際交流員（CIR）との外国語の授業

現在ニセコ町には5名の国際交流員がおり、地域の多文化共生や異文化理解、国際理解を推進することを目的として、翻訳・通訳、外国人住民の支援、交流イベント実施、言語会話教室や学校訪問などの仕事をしている。

今年度も10月に3名が本校に来校し、6年生の外国語の授業において、出身国の地理、自然、言語などの様々な特徴について紹介した。異文化に対する子どもたちの関心が高く、より理解を深めようと発言や質問をする姿が見られた。



④滋賀県高島市（旧マキノ町）の小学生との交流授業

カタカナの町名という共通項により姉妹都市であったマキノ町は、町村合併で高島市となった現在も、交流都市としてニセコ町との関係が続いている。

本町のALTは民間派遣会社との契約であるが、その会社の担当者と双方の教育委員会が連携し、本町の二つの小学校と旧マキノ町の三つの小学校をつないでオンラインによる外国語の交流授業を行っている。令和4年度はそれぞれの学校の6学年が、自分の将来の夢を英語で伝え合う活動を行った。この交流活動をさらに充実させるため、今年度は年2回交流授業を実施することとし、双方の担当者とオンラインで打合せを行い、改善を図りながら継続した取組を進めている。

4 おわりに

ニセコ町は「多様性のまち」と言われる。国内外の移住者が集まり、価値観も多様である。お互いを理解し、尊重しながら生きる人々が暮らすまちである。この先の未来を生きていく子どもたちにとって、多文化共生や異文化理解、コミュニケーション能力は欠かせないであろう。この地域で学ぶよさを存分に生かした学校教育の推進により一層努めていきたい。